

2025年度コンプライアンスアンケート【チーム管理者】 実施結果

2025年11月
日本ラグビーフットボール協会



**JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION**

(公財)日本ラグビーフットボール協会

コンプライアンスアンケートについて

1. 目的

- ・ 登録チームにおけるコンプライアンス遵守の現状及び課題の把握し、今後の施策立案に活用する。
- ・ アンケート結果を登録チームに共有し今後の取り組み強化を働きかける。インテグリティ相談窓口を周知する。

2. 概要

1. 期 間：2025年3月17日～6月30日
2. 対 象：JRFUに登録している全チーム
3. 回 答：2429件/2513チーム(97%)※
4. 方 法：eラーニング

(2025インテグリティ推進講習会の受講後アンケートとして実施)

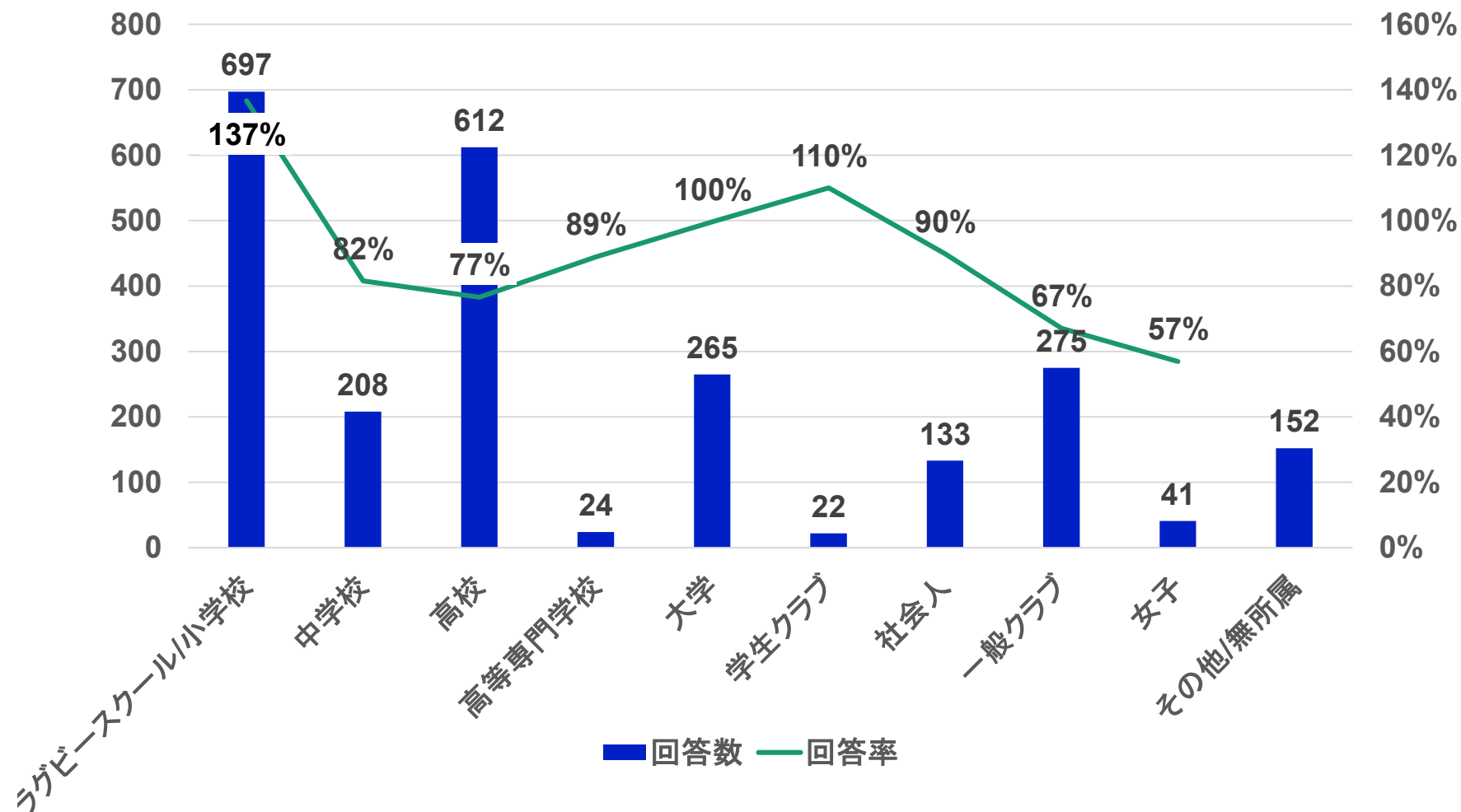
※チームによっては、複数のチーム管理者等からそれぞれ回答していただいたケースがあるため、必ずしも97%のチームから得られたものではない。

1. 属性調査

アンケート回答者の属性について、チームのカテゴリーや所属都道府県協会、チーム内の役割を調査しました。

所属カテゴリー

※チームによっては、複数のチーム管理者等からそれぞれ回答していただいたケースがあるため、回答率が100%を超える場合がある

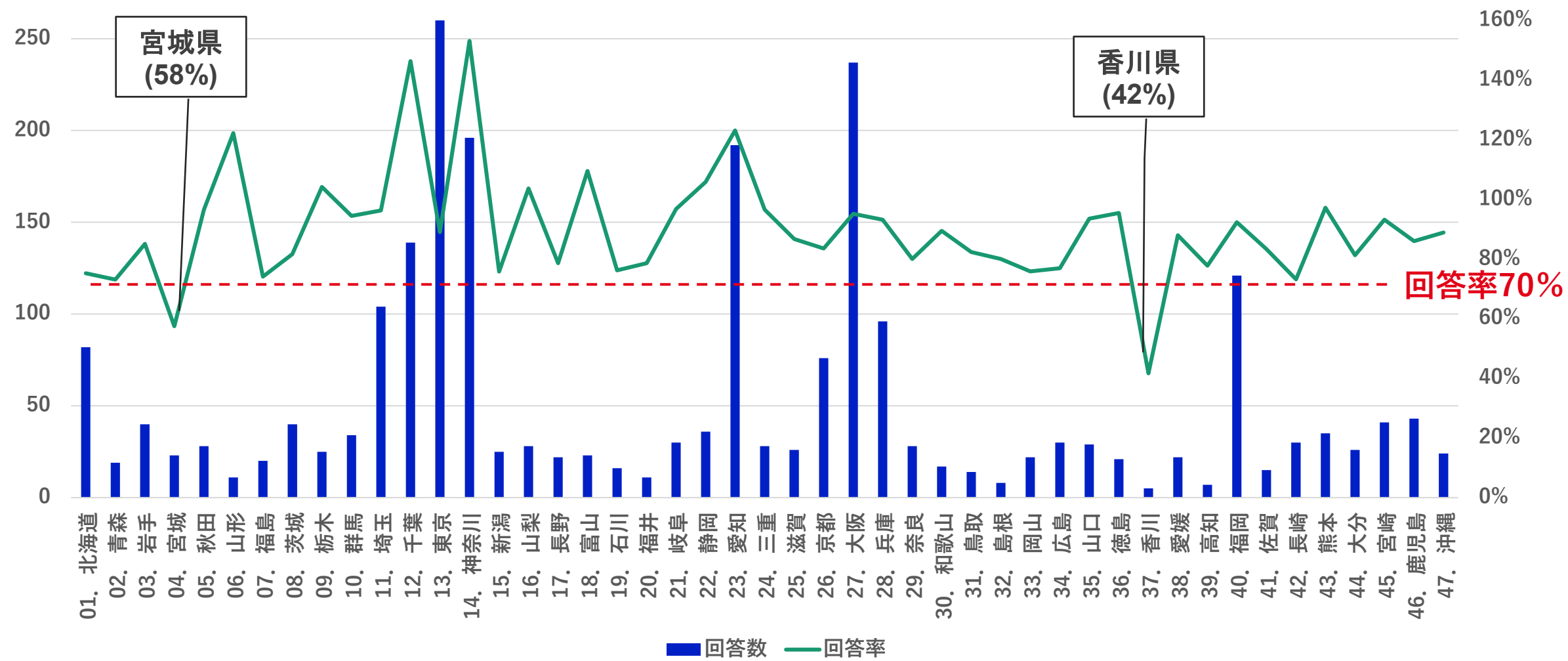


・ 同一チームから複数回答があったこともあり、全体の回答率は97%と高かった

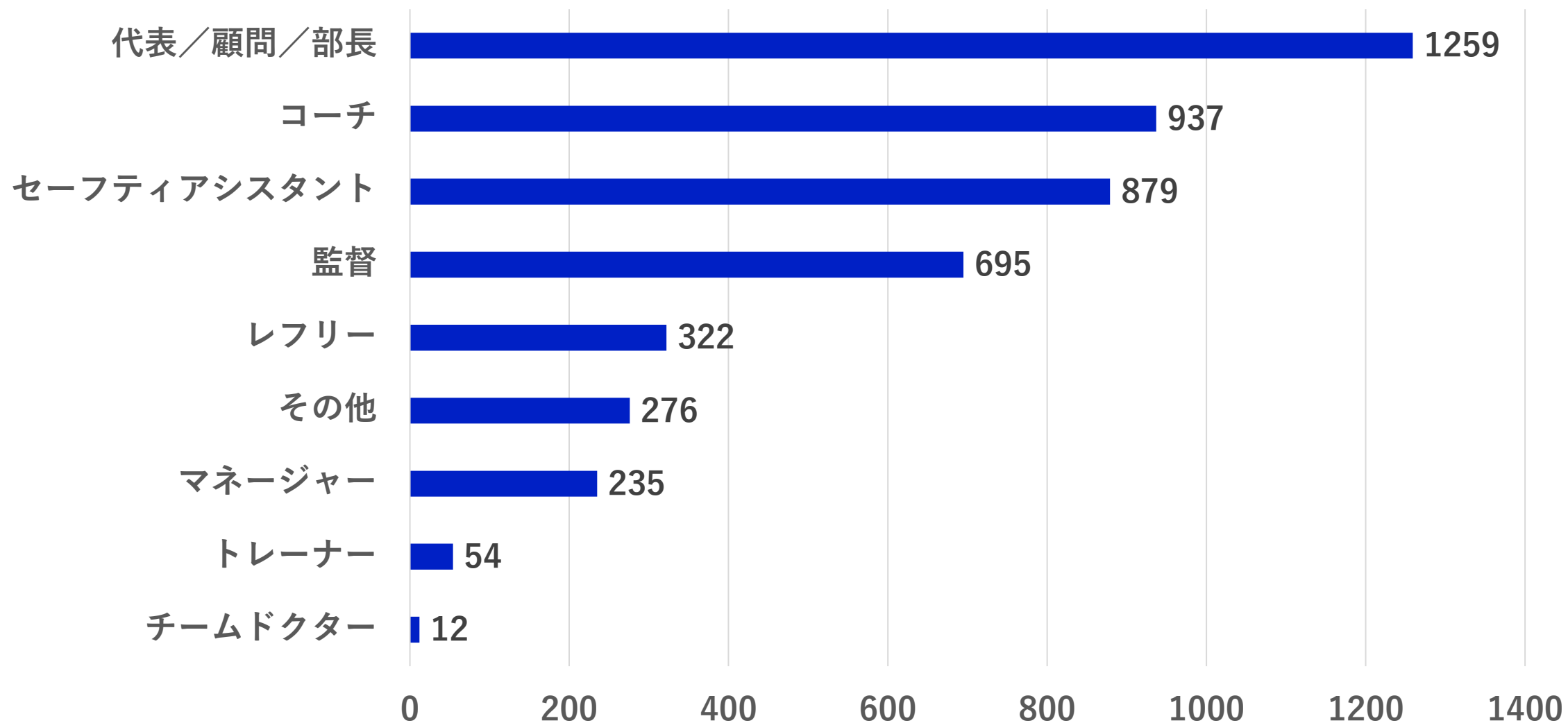
・ 女子チームの回答率は昨年(97%)から大幅に減少

所属都道府県協会

※チームによっては、複数のチーム管理者等からそれぞれ回答していただいたケースがあるため、回答率が100%を超える場合がある



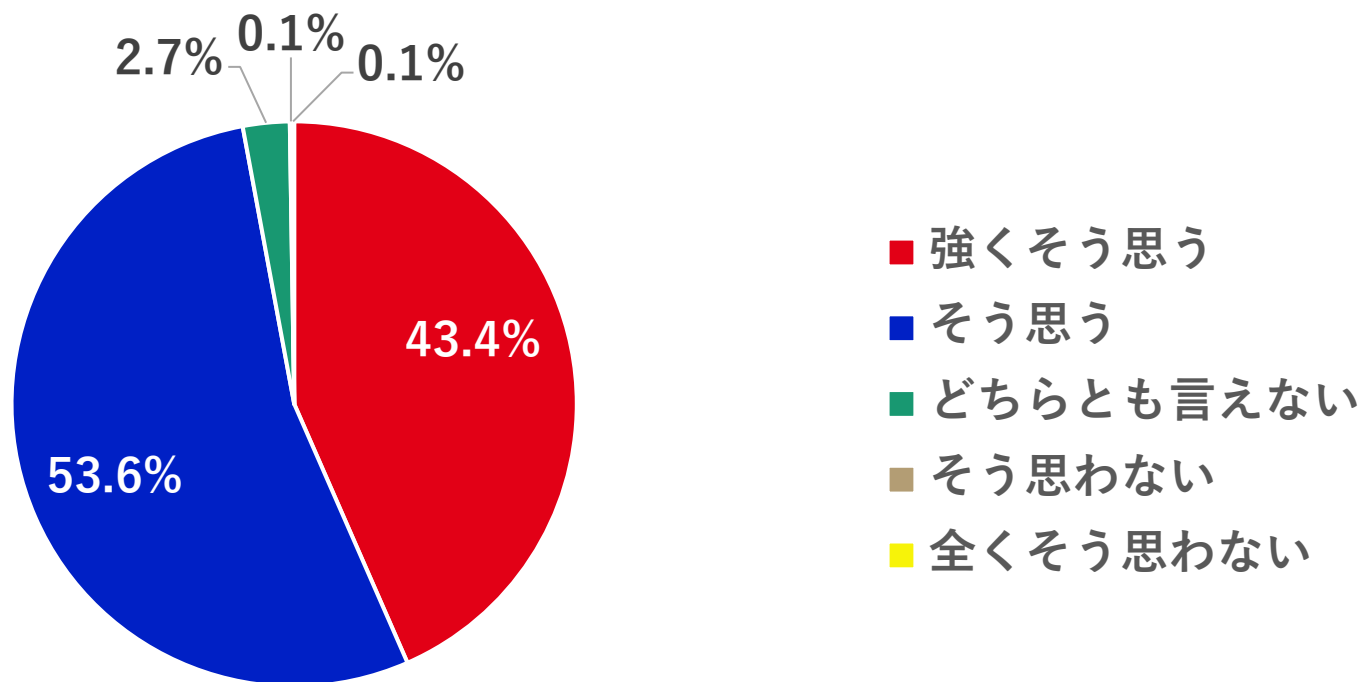
回答者のチーム内での役割



2. インテグリティ推進講習会

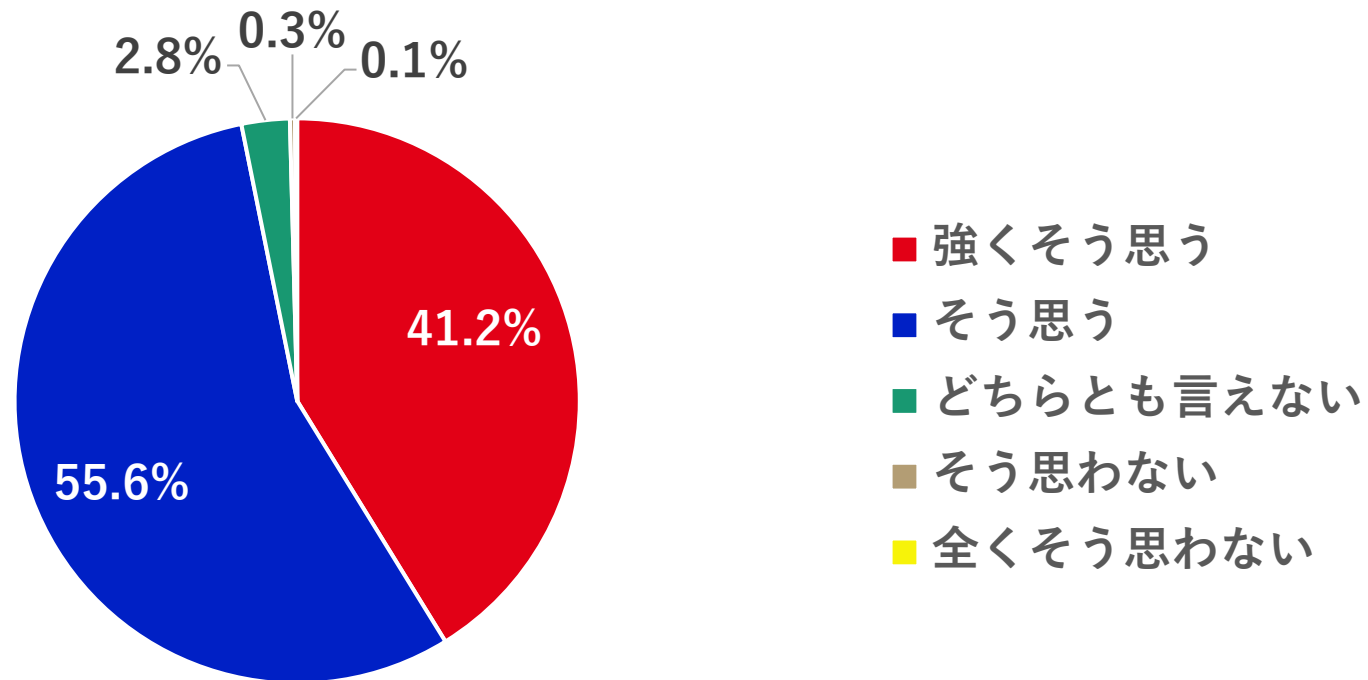
ビデオ視聴方式による講習会について、各項目の役立った点・改善点、今後に向けた要望を調査しました。

講習会の内容に満足したか



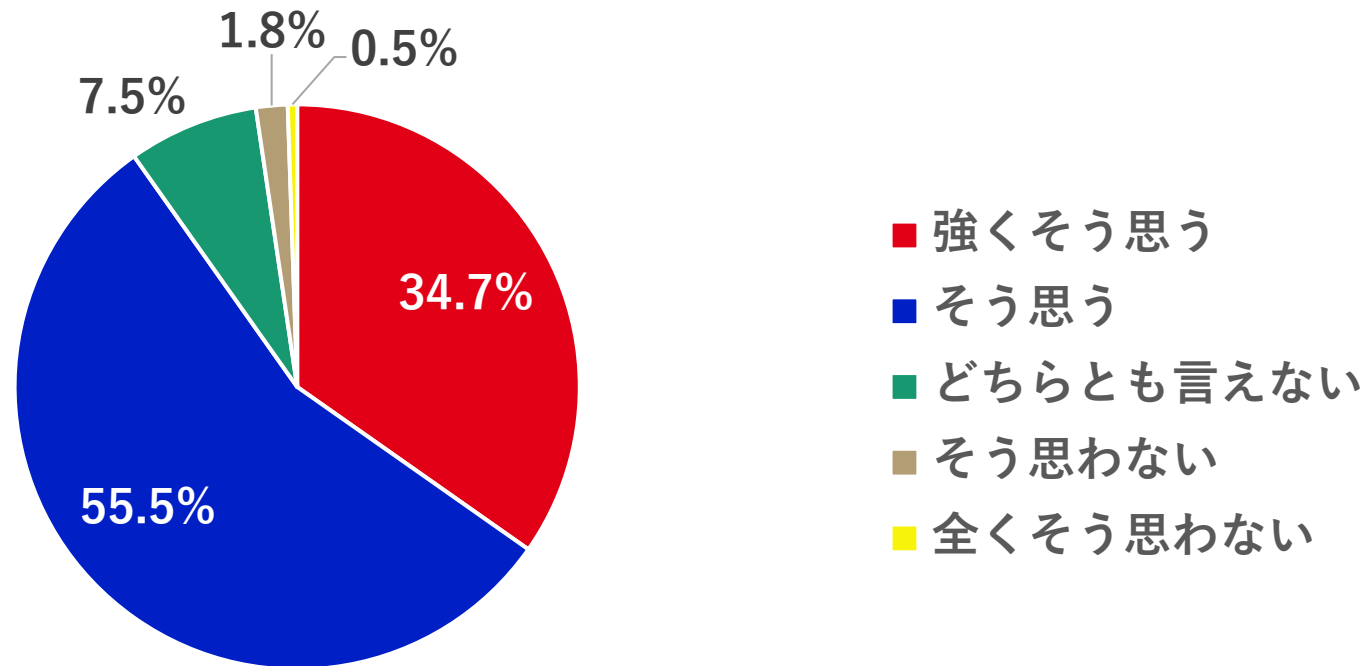
「強く思う」「そう思う」と回答したチームが97%と、例年通り満足度はかなり高かった

内容は整理・計画されていたか



「強く思う」「そう思う」と回答したチームが96.8%と、例年通り内容は良く整理されていたといえる

学習量は適切だったか



「強く思う」「そう思う」と回答したチームが90.2%と、
昨年より多少増加したものの量については改善の余地がある

動画「インテグリティへの取り組みのお願いについて」へのご意見

5つの コアバリュー

- 5つのコアバリュー（品位/情熱/結束/規律/尊重）の重要性を再認識できた
- 特に品位（インテグリティ）が根幹であると感じた
- ラグビーシーンだけでなく、日常生活においても意識したい

具体的なデータの 提示

- コンプライアンス違反の件数（22件）や問題発生状況が示され、他人事ではないと認識できた
- 問題となる15の行動を知れてよかった
- 特に暴力・ハラスメントが約70%を占めていること、ラグビースクールでの発生が多いことに驚いた

参考情報、学習用 コンテンツの紹介

- 参考情報、各種コンテンツ（動画、eラーニング等）がとても有用だと感じた
- チーム内で共有し、選手・保護者への周知・啓発に活用したい

SNSとの 向き合い方

- 具体的な注意点や事例が仕事や日常生活にも直結する内容で参考になった
- SNSの取り扱いの大切さを認識した

要望/提言

- ジュニアの指導者全員に対して、毎年動画視聴を義務付けレポート提出を課すべき
- 小学生にも理解できるよう、簡単な言葉遣いでの説明や子ども向けの分かりやすいアニメを作ってほしい

動画「相談窓口での事例から」へのご意見

具体的な事例 の紹介

- 事例をもとに学べたため自分ごととして捉えられた
- スクールからの相談が多いという実情に驚き、体制を整備しなければと思った
- 保護者コーチの自身の子供に対する事例や、過大な競技志向・活動量がハラスメントの原因になり得ることなど、カテゴリー特有の問題点を知れた

ハラスメントの 定義の明確化

- パワハラの6類型が明確に示され、何がNGなのか分析しやすかった
- 「指導の適正範囲」が明確に示され、日常の指導場面を見直す良い機会となった
- ハラスメントは被害者の主観的な判断のみで決まるわけではなく、一般的な感覚に基づいて判断されると学んだ

相談窓口の 重要性と安心感

- 個人やチームで抱え込まず、誰でもいつでも相談できる窓口があることで安心感がある
- 早めの相談で大事になることを防ぎ、適切な対応ができると知った
- 相談窓口の認知度を上げるため、選手や保護者への連絡フォーム、スクールや学校のHPにも掲載したい

スポーツ現場 への適用

- 社会一般的なハラスメントの事例と比較されたことで、スポーツ現場のハラスメントの事例が知れて分かりやすかった
- 組織内の優位性(指導者と選手の関係であればほぼ無条件に認められる)という視点が役に立った

要望/提言

- どのように解決したかについても紹介してほしい
- 最新の事例を紹介してほしい
- 他の弁護士なども含めて多角的な情報がほしい
- 通報者保護の観点についてより詳細に説明することで利用率が高まる

動画「SNSとの向き合い方を考える」へのご意見

SNSのリスクの再認識

- SNSは「将来の履歴書」であり「人生を変える」「未来につながる」というメッセージが心に残った
- 若年層への指導に活かしたい
- 「国民総メディア時代」周囲の発信によって巻き込まれるリスクを認識した
- SNSの便利さの裏側にあるリスクや、不用意な発言・行動が取り返しのつかない結果を招くという現実、個人の発信がチームや企業の信用に影響を与える可能性を再認識した

行動指針

- 「3つの見直し」（過去の情報・繋がり・パスワード）と「3つの良い習慣」が具体的な予防策として非常に有用だった
- 特に「送信直前に一旦冷静になる（あいうえお）」や「危険な時間帯を意識する」が実践的で、常に意識したい
- ファクトチェック、投稿前の熟慮・冷静さが重要だと理解した

動画全般について

- 選手、保護者への啓発、学校教育にも活用したい
- マザーテレサの言葉「思考→言葉→行動→習慣→性格→運命」の引用が心に響き、説得力があった
- 内容が体系的に整理され、説明が明快で分かりやすかった

要望/提言

- ラグビーを例にしたよりシビアな事例があるとインパクトがある
- チームや保護者に共有できる簡易版やチェックリストのようなツールがあると浸透しやすい
- 写真や動画をSNSに掲載する際のガイドラインがほしい
- 無断撮影・無断アップロードの問題への解決策が知りたい

動画「スポーツの価値とアンチ・ドーピング」へのご意見

スポーツの価値とフェアネスの認識

- 公平さ、敬意、誠実さといったスポーツの核となる価値が、ドーピングによって直接脅かされると理解した
- 「フェア」を体現しスポーツの価値を高めることが大切だと共感した
- アンチドーピングを教育から始めるという考え方に賛同した

意図せぬドーピングの身近さ

- 市販薬やサプリメントもドーピングとなる可能性があると学べた
- 日頃の注意と知識が必要だと理解した
- Global-DRO（検索サイト）の紹介が役立った
- 専門家のアドバイスを貰うなど、チームとして取り組む必要性を感じた

若い世代への教育の必要性

- アンダーカテゴリーや年少期からの教育が必須であると認識した
- 精神的な指導や人間性を高める教育がアンチドーピングに繋がる

日本協会の取り組み

- ドーピング検査事業、教育啓発活動、調査研究学術活動など、日本協会の取り組みを知ることができた
- 組織的に取り組まないといけないことが理解できた

要望/提言

- 子ども向けの学習資料がほしい
- 年齢別やカテゴリーに応じた事例を紹介してほしい
- トップカテゴリー以外での取り組み方を知りたい
- ドーピングの弊害（副作用など）を詳しく知りたい

講習会の改善点について

時間・分量

- 受講時間を短縮してほしい
- 動画の再生速度を変更できるようにしてほしい（倍速再生したい）
- 1本の動画が長いため分割してほしい
- スライドの文字情報を減らしてほしい
- アンケートの設問数が多すぎる

システム

- 動画に行き着くまでが非常に煩雑なため、アクセス性を改善してほしい
- 新規登録者と継続登録者で視聴内容を選択できるようにしてほしい
- 対面講習も実施してほしい
- 外国人向けに多言語対応してほしい

内容

- 実際の事例、起こりうる事例の説明をもっと増やしてほしい
- カテゴリー別の事例、課題や指導方法を加えてほしい
- 最新の情報・事例にアップデートしてほしい
- 事例紹介で本人が喋ってほしい
- 事例が起こった際の解決方法も教えてほしい
- インテグリティを体現して活躍されている方のポジティブな事例も知りたい

周知

- チーム登録者だけでなく、より多くの関係者に周知してほしい
- コーチや監督などの指導者には毎年の受講を義務付けてもよい
- ラグビーファミリー登録者全員に受講させてほしい

講習会で取り上げてほしいテーマ

具体的な事例

- ハラスメントの具体例
- ドーピング、薬物、違法カジノの事例とその影響
- SNSのトラブル事例とその対応
- 当事者のその後、特に活動制限や資格剥奪といった処分
- 失敗から立ち直ったチームの事例

カテゴリー別の 内容

- カテゴリー別に特化した内容
- 小中高校生のメンタル、スキルなどの指導方法
- 女子選手の指導方法
- 指導者と保護者のトラブル、モンスターペアレントへの対応
- 保護者コーチのあり方
- 子ども向けの教育方法や教材

ハラスメント・ 指導

- ハラスメント対策の深掘り
- 指導者の品位のあり方
- 勝利至上主義がもたらす弊害
- 指導とハラスメントの境界

外部の取り組み

- 海外におけるインテグリティ推進の取り組み事例、効果
- 他競技の取り組み事例

その他

- メンタルヘルスと幸福
- 内部告発の手順(安全に匿名で報告する方法)
- レフリーとのコミュニケーションの取り方、敬意を持つこと
- 現状で満足、特にSNSやアンチドーピングは重要
- 継続的なアップデート希望

eラーニング方式による講習会について

○：利便性

- 自分の都合の良い時間に自分のペースで受講できるため非常に便利
- どこからでも受講でき、移動の手間や交通費の負担がなくて良い
- 繰り返し視聴でき、理解が深まる
- 対面よりも負担が少なく受講しやすい

○：内容・構成

- 有益で実用的だった
- 教材がよく構成されていた
- 実際の事例が分かりやすくまとめられていた
- 映像やスライドが見やすく、分かりやすかった

△：システム・操作性

- 動画の再生速度変更、数十秒戻し機能を追加してほしい
- 終了ボタンが表示されない、中断すると最初から再生されるなどのエラーを修正してほしい
- セクションごとの音量を一定にしてほしい
- サイトが煩雑でネット上で迷子になる
- UIを改善してほしい

△：内容・時間的負担

- 動画時間が長く、正直かなり負担
- アンケートが長すぎる
- 有資格者にはブラッシュアップ版のようなものを別に用意すれば負担が少ない

その他

- 対面形式も実施してほしい(選択制や各地区協会での実施)
- 高齢者やパソコン等が使えない人への配慮が必要
- 対面の方が緊張感がある
- 相互参加型（ディスカッションなど）の要素も取り入れてほしい
- 選手も受講できるようにしたい

3. コンプライアンス

コンプライアンス遵守に対する意識と取り組み、実際に起きた・見た・聞いたコンプライアンス違反事例を調査しました。

注意している(注意が必要だと思う)事案

ハラスメント(パワハラ、セクハラ、アルハラ、モラハラ等)

上位4項目は昨年同様

SNSの不用意/不適切な利用

差別(人種差別、性差別等)

暴力行為(飲酒を伴う不行跡等)

交通違反(飲酒運転等)

不適切な経理処理

その他の各種法令違反

私的な利益追求(横領等)

アスリート(選手)への写真・動画による性的ハラスメント

性犯罪

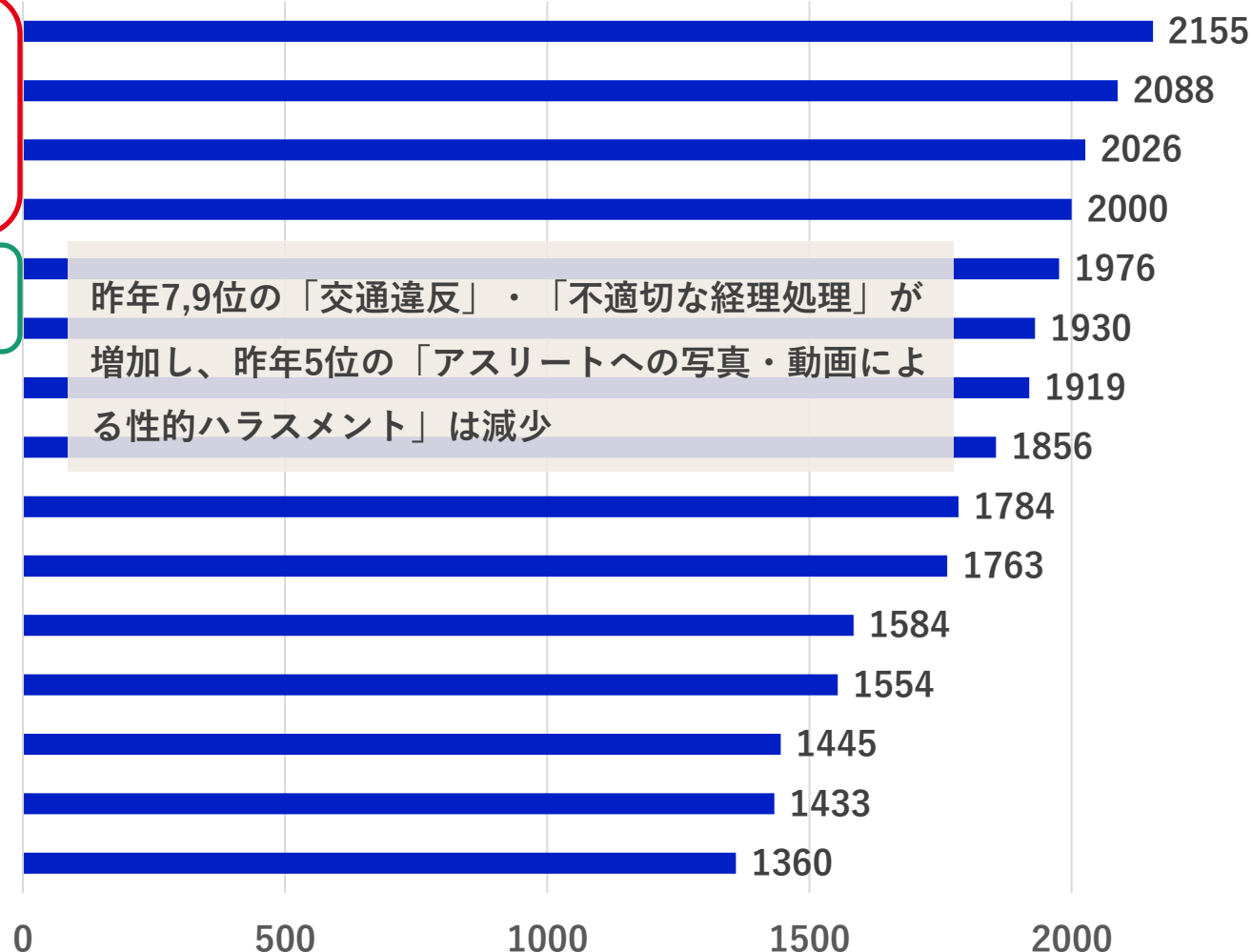
試合結果の不正操作

反社会的勢力との関わり

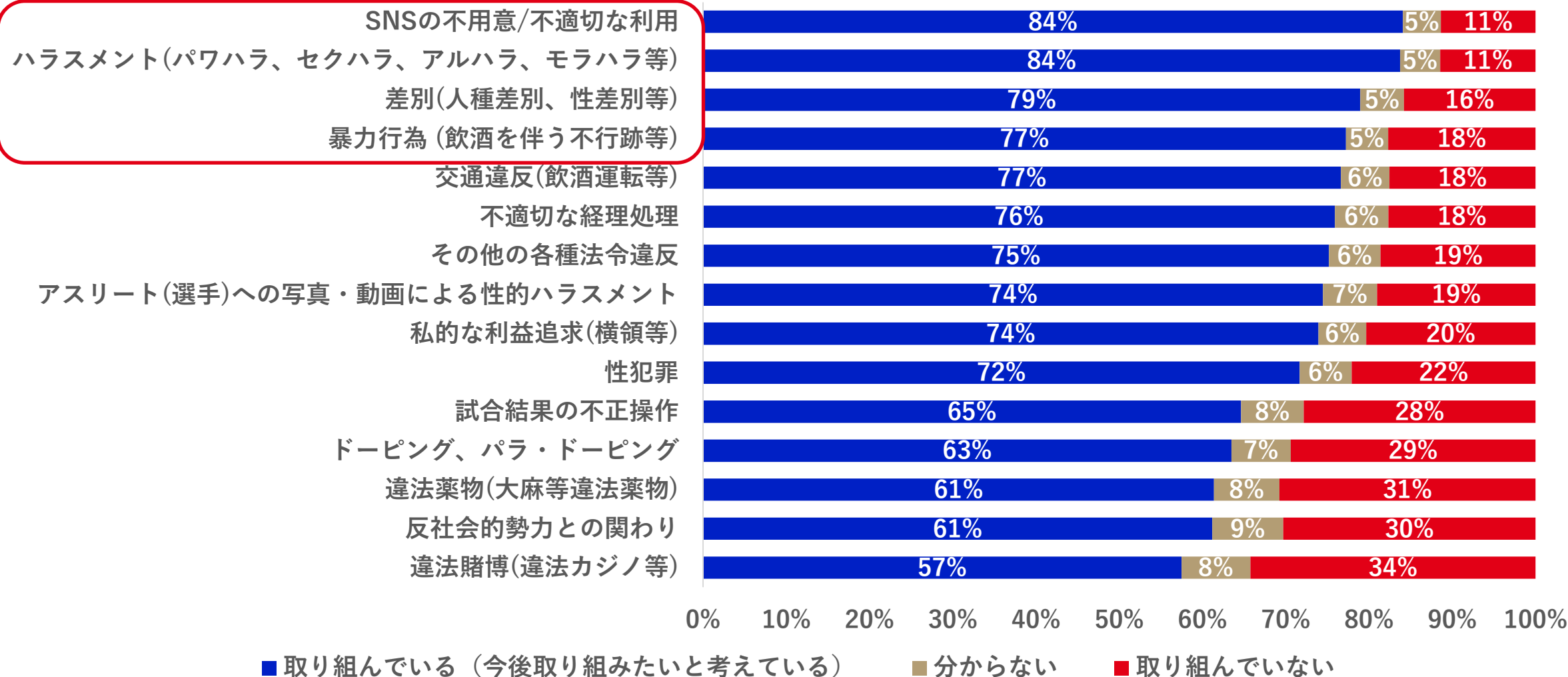
違法薬物(大麻等違法薬物)

ドーピング、パラ・ドーピング

違法賭博(違法カジノ等)



コンプライアンス遵守の取り組み状況



コンプライアンス遵守の具体的取り組み

ミーティング・会議

- 継続的・定期的なミーティングでの周知、注意喚起
- 練習前、練習後、週1回、月1回、シーズン初め/中盤/終わりなどに行う
- 新入生研修、夏合宿時などの機会も活用
- コーチミーティング、保護者会、総会など対象者に応じた会議

研修・勉強会

- 日本ラグビー協会やUNIVASなど外部機関が主催する研修会への参加
- 研修内容をチーム内で共有する伝達講習も行う
- 外部講師（警察官、弁護士など）を招いての勉強会を実施
- 会社での研修

チーム規則に明文化

- チーム規則（部則）への記載・明文化や、規約の整備
- コーチ就任時やチーム加入時に誓約書を書く

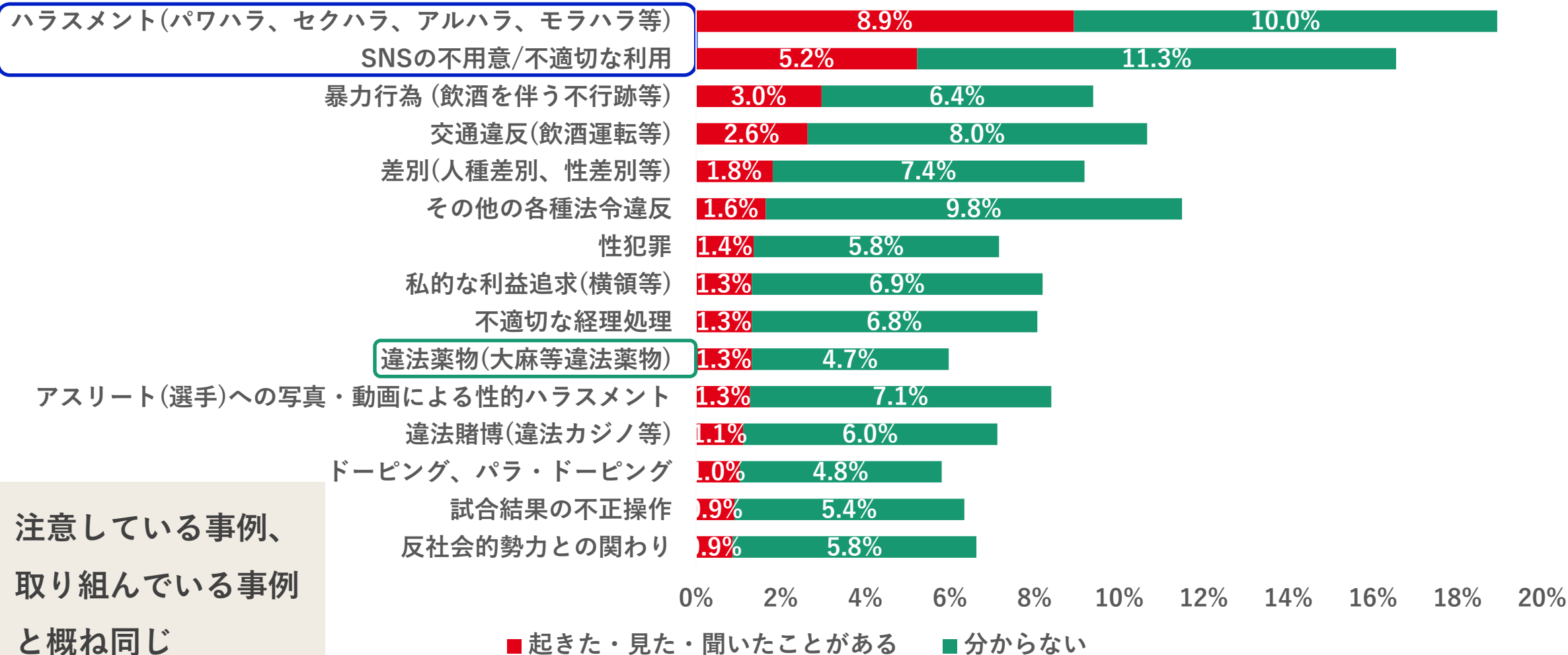
組織・財務

- 活動費の会計処理・報告について第三者の監査を受けている
- 複数の役員・OBで管理する体制構築
- 反社会的な存在のコーチのコーチング停止

その他

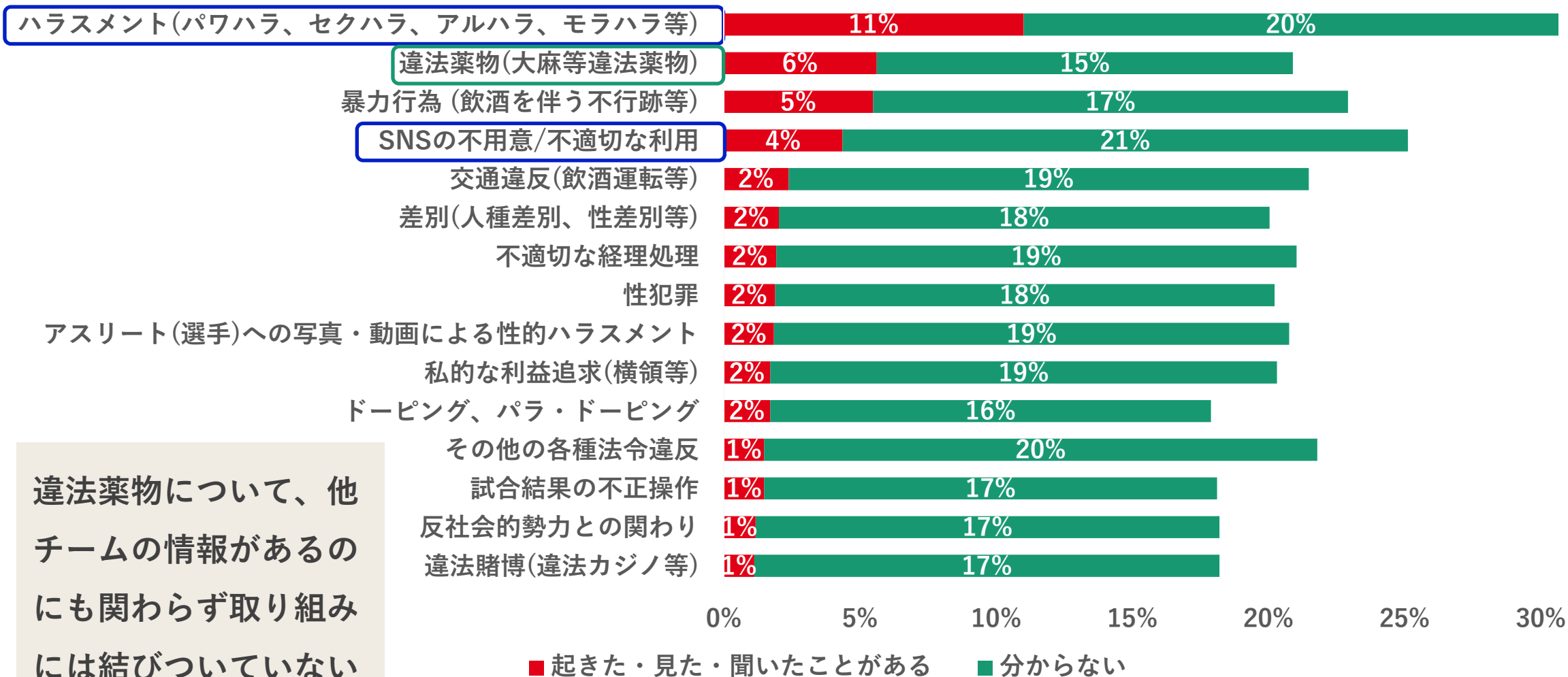
- 学習資料の活用、PDF化
- SNS：投稿前に管理者全員で校閲、写真掲載の同意書の取得
- グループLINEの批判の投稿厳禁ルール
- 学生：学校での授業、リーフレット配布
- 女子：特有のハラスメントの意識向上

過去3年以内に起きた・見た・聞いた事例(自チーム)



注意している事例、
取り組んでいる事例
と概ね同じ

過去3年以内に起きた・見た・聞いた事例(他チーム)



違法薬物について、他
チームの情報があるの
にも関わらず取り組み
には結びついていない

ヒヤリ・ハット事例

指導時の言動

- 選手への行きすぎた発言
- 大きな怒声で選手を叱責
- 熱心なあまり口調が暴力的
- 頭を叩く、髪を引っ張るなどの行為
- 勝利至上主義的な過度な要求
- 練習から一時的に外す
- 選手が委縮したり、深く落ち込んだりした

ハラスメント

- ジェンダーを無視した言動をとりかけた
- 感染症に罹患した選手への差別的発言
- レフリーへの野次
- 相手チームの選手への故意の踏みつけ
- 個人的な不信感を宗教批判と同義に聞こえる口調で話していた

SNS

- 不用意な投稿が一時的に拡散しそうなった
- 個人的な動画や写真の共有
- いじりがひどくなりSNSで中傷した
- 他チームの誹謗中傷
- 女性マネージャーの肖像権侵害
- 合宿時の子どもの入浴中の写真を共有フォルダーに入れた

飲酒

- 飲酒の場でのトラブル
- ハメを外して、セクハラギリギリの言動
- 飲みの席で数名が全裸になった
- 飲酒翌日の酒気帯びで自転車で帰ろうとした

会計・運営

- 集金したお金の領収書を発行していなかった
- 会計処理が限定された個人に集中している
- 過去の帳簿付け忘れ
- 大会参加申込書の不備や未提出
- 協会への選手登録の未了

その他

- イヤホンをして自転車で移動
- 自転車の並走
- 運転免許・保険期限切れ
- オンラインカジノの認識不足
- 選手起用を巡りスタッフと保護者との関係性がこじれた
- 練習での怪我をハラスメントと捉えられた
- 監督の処方薬の余りを部で使用

起きた・見た・聞いた事例（暴力・ハラスメント以外）

指導

- 指導方針の違いによる分裂
- 現代的ではない指導
- 保護者コーチが自分の子供を叱責することで、他の子供と平等に扱っていると勘違いしている
- 自分の子供や親しい保護者の子供を優先的に試合に使う

保護者・OB

- 保護者やOB会が過剰なまでに物言いをしてくる
- モンスターペアレンツがよくいる
- 保護者間のトラブルで当該のお子さんがチームを離れた

SNS

- 選手同士の誹謗中傷
- 自チームを脱退した選手に「辞めてくれてありがとう」、やひたむきな選手に「狂犬」といった陰悪な表現
- 試合でのラフプレーを取り上げる

飲酒・薬物

- 大麻事件をニュースで聞いた
- 自チームで禁止薬物を使用した
- 高校生の飲酒
- 飲酒運転
- 違法薬物の使用が問題視され大会に参加できなかった

会計・運営

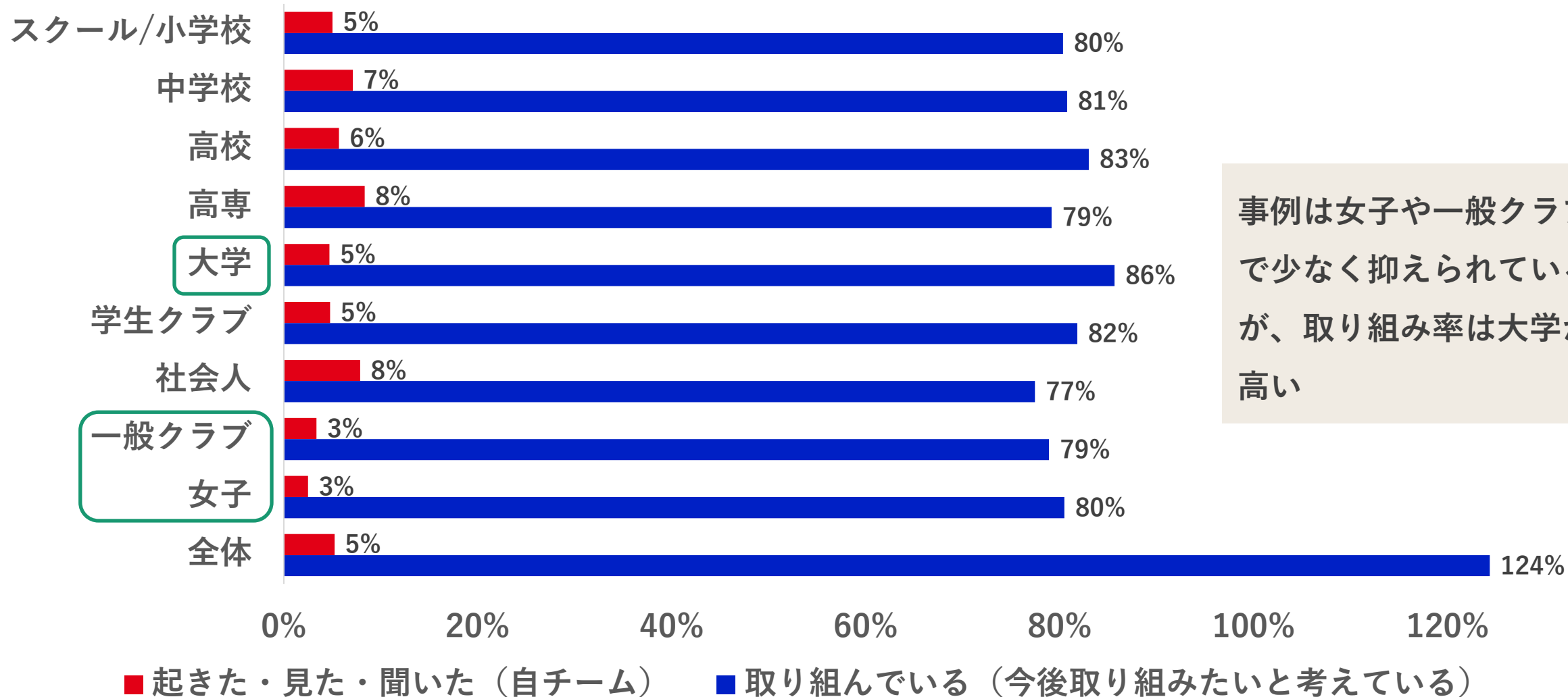
- 不透明な経費処理
- 合同チームにおける遠征費用の会計が不明瞭
- 下位の協会は成り手不足で、民主プロセスが不十分
- ラグビースクールを一般社団法人化したが、登記手続きを怠り料金を課された

その他

- 自転車通学時の道路交通法違反
- 窃盗事件
- タクシー強盗
- 顧問のストーカー行為
- 登録外選手の出場
- ギャンブル依存症
- 人種差別的な発言

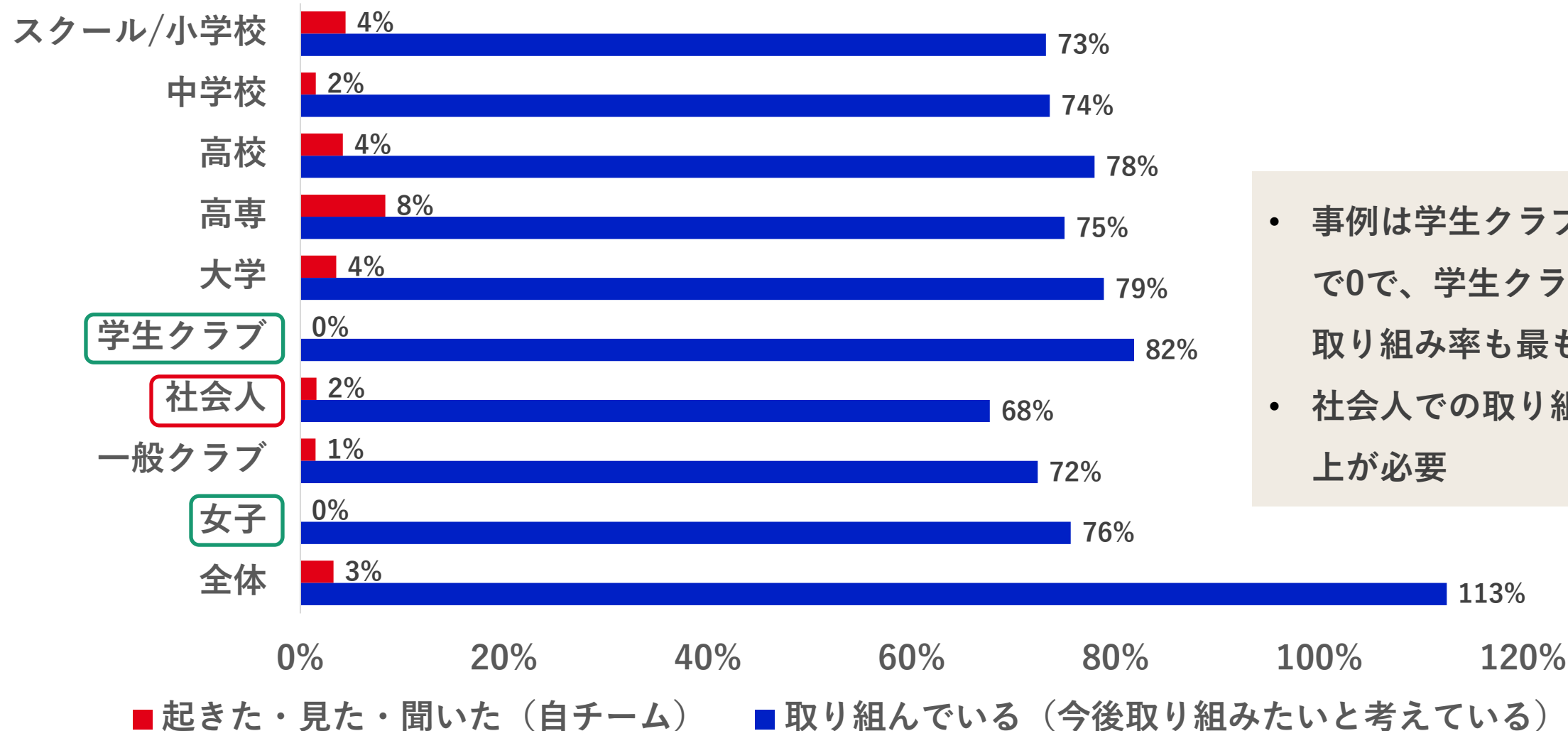
SNSに関する事例と取り組み状況

※チームによっては、複数のチーム管理者等からそれぞれ回答していただいたケースがあるため、回答率が100%を超える場合がある



交通違反に関する事例と取り組み状況

※チームによっては、複数のチーム管理者等からそれぞれ回答していただいたケースがあるため、回答率が100%を超える場合がある



- 事例は学生クラブや女子で0で、学生クラブでは取り組み率も最も高い
- 社会人での取り組み率向上が必要

違反事案への対応

指導・調査・情報共有

- 口頭指導、嚴重注意
- 関係者からの聞き取りによる事実確認
- ミーティングで具体的な事例を提示し、再発防止
- チーム内で共有し事例について部員全体で改めて認識を共有した
- SNS関連事案では速やかに投稿削除

具体例：飲酒運転・暴行

- 飲酒運転が発覚したため、チームから除籍した
- 飲酒運転事案が発生し、協会やリーグに報告の上、当該選手を活動停止処分とした
- 所属会社のコンプライアンス委員会から外部講師を呼んで講習会を実施した
- 飲酒が絡む暴行事件が発生したが、相互の和解によって解決した

具体例：パワハラ

- 指導者のパワハラ事案が発生、3年以内の複数回事象で除名処分となった
- 部員へのパワハラについて謹慎処分
- 生徒に対し高圧的な態度で接した指導員について、指導員幹事会の決議で団体の除名処分を行った
- パワハラコーチの解雇

組織体制・外部連携

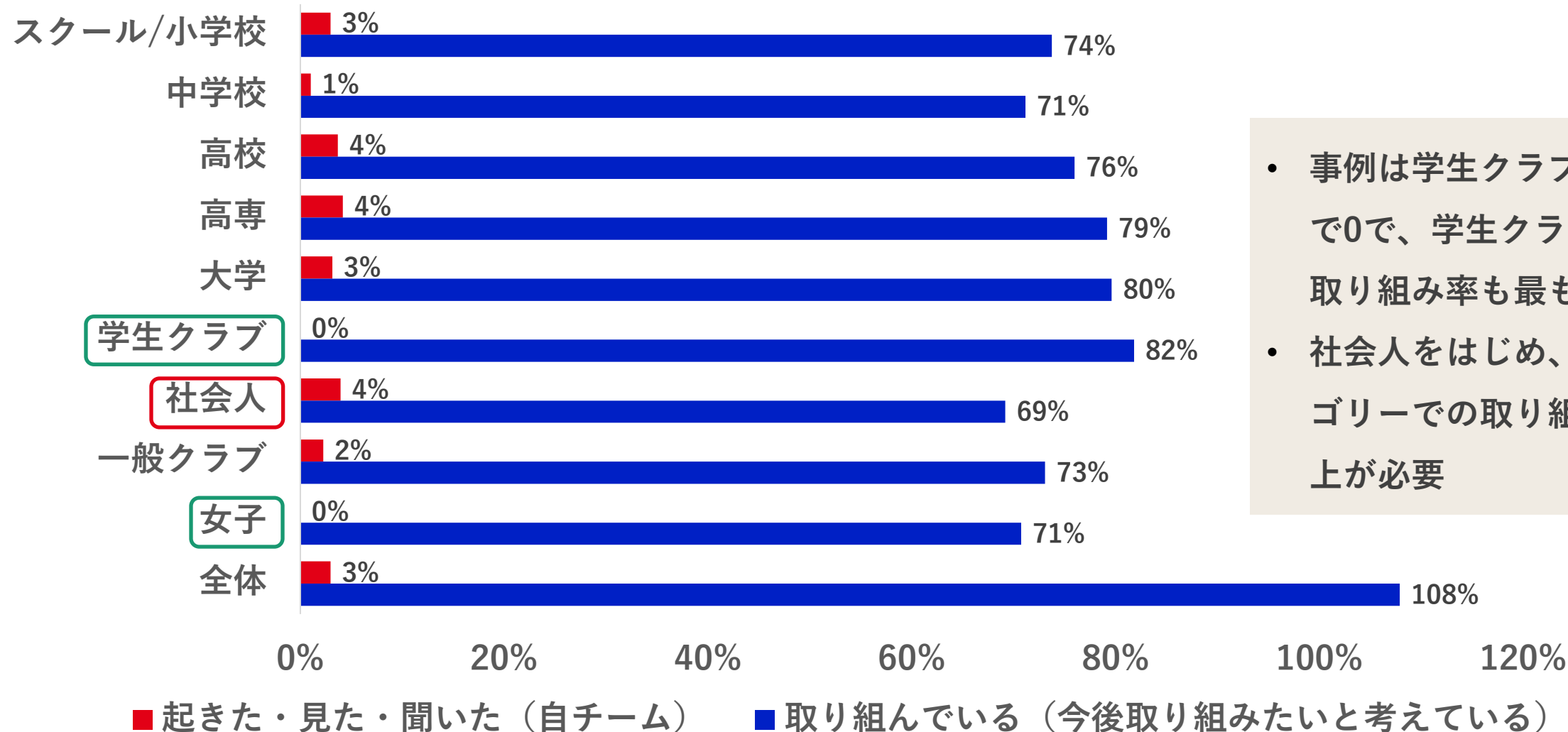
- セーフガーディング部門を設置
- コンプライアンス委員会を立ち上げ、原因分析・再発防止
- 倫理委員会を設立して対応
- 関係各所（警察、自治体等）への迅速な情報提供
- 県協会と協力の上、当事者へのフォローと再発防止策を策定
- 学校、保護者と連携し指導
- 警察の方によるチームへの講演

4. 暴力・ハラスメント

日本協会が取り組みを強化している暴力・ハラスメントについて、原因・根絶のための方法、実際の事例を調査しました。

暴力に関する事例と取り組み状況

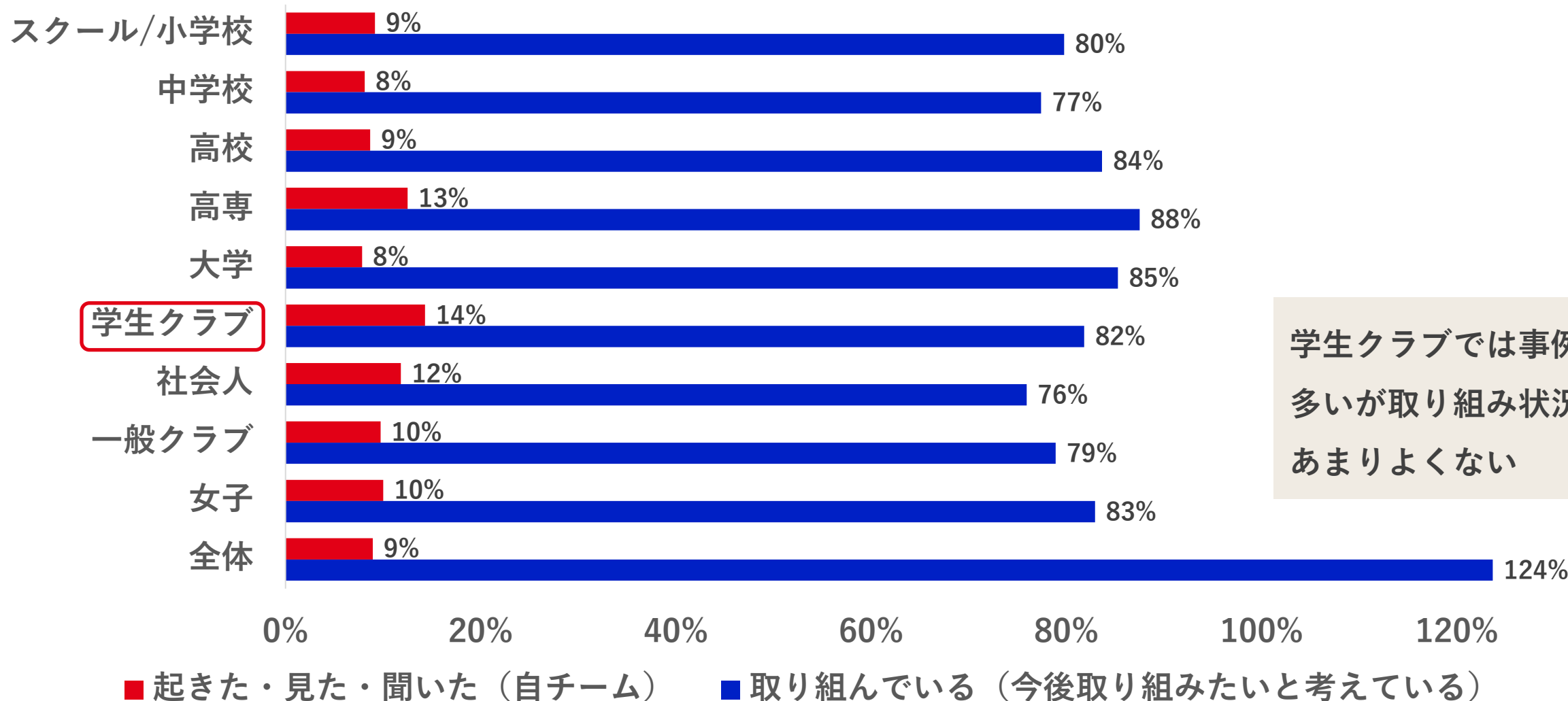
※チームによっては、複数のチーム管理者等からそれぞれ回答していただいたケースがあるため、回答率が100%を超える場合がある



- 事例は学生クラブや女子で0で、学生クラブでは取り組み率も最も高い
- 社会人をはじめ、全カテゴリーでの取り組み率向上が必要

ハラスメントに関する事例と取り組み状況

※チームによっては、複数のチーム管理者等からそれぞれ回答していただいたケースがあるため、回答率が100%を超える場合がある



学生クラブでは事例が多いが取り組み状況はあまりよくない

暴力・ハラスメントの具体的事例

コーチの暴言暴力

- 人格を否定するような発言
- 上達の遅い選手への暴言
- 「お前のせいで負けた」と名指しで叱責
- ふざけて話を聞かない選手に持っていた帽子で叩いた
- 耳を平手打ちして鼓膜を破った
- コーチである父親が選手である自身の子を叩いた

ハラスメント

- 試合に負けた後や言うことを聞かないと言って、全員の選手に頭を丸刈りにしろと強要
- 退校希望者への長時間の残留説得
- 出産に伴い、協会の役を本人の同意無しに解かれた
- 一部社員スタッフのサービス残業
- 女子選手の盗撮

選手・チーム内

- 選手が女子マネージャーにセクシュアルハラスメントに及んだ
- 部員同士のいさかいや不用意な言動
- スパイクなどを燃やした
- 名指しで呼ばない、無視をする
- 外見からのあだ名をつけられ、ミスをするたびに酷い言われ方をされた

レフリー/試合

- レフリーとレフリーコーチの間でのパワハラ
- 監督からレフリーへの暴言
- レフリングに対して試合後に詰め寄る
- 保護者から判定内容に対する口汚い言葉でのクレーム
- 交流大会でハイタックルに対しコーチ同士がつかみ合いの喧嘩に発展

その他

- リーグワン選手との過度の接触を行おうとする行為（サイン、写真等）
- SNSでの誹謗中傷やウソや紛らわしい投稿

暴力・ハラスメントの原因は？

構造・環境

- 上下関係、立場の差
- 組織の閉鎖性
- ワンマン体制、権力が一人の指導者に集中している
- 古い価値観の指導が世代間で引き継がれてしまう負の連鎖
- 指導者間の監視体制が構築できない

指導姿勢

- 勝利至上主義
- 行き過ぎた指導
- 指導者のエゴ・自己満足
- プレイヤーファーストの軽視
- 保護者コーチの行き過ぎた情熱

心理

- アンガーマネジメントの欠如
- 感情のコントロール不足
- ストレスや心の余裕のなさ
- 傲慢さや自己中心的な考え方
- 「選手をコントロールしたい」という欲求
- アルコールが自制心を低下させる

知識・能力

- 指導者の勉強不足・知識不足
- ラグビー憲章やインテグリティの理解不足
- ハラスメントの定義や影響への理解不足
- 人間性・器量のなさ
- 「昔はOKだった」という古い認識を更新できていない
- 視野の狭さ

関係性

- コミュニケーション不足
- 相互理解の欠如
- リスペクトの欠如
- 熱量・認識のズレ、指導者は勝利志向 vs 選手は習い事

暴力・ハラスメントを根絶するには？

意識変革

- 指導者、選手、保護者、全ての関係者が、暴力・ハラスメントを「してはならない」と考える人を増やす
- 昭和的な考え方を持つ指導者の意識改革
- 凝り固まった考えを押し付けないためのコミュニケーション

研修・啓発

- インテグリティの追求と、コアバリューの理解を深める研修を継続する
- 相談窓口の存在の周知
- 別ジャンルの研修（心理教育セミナー、カウンセラーとの面談など）を受け、客観性を確保する
- トッププレイヤーによる積極的な啓発活動（憧れの存在として）

第三者の目

- 監視機関の強化
- 各県への担当者配置
- ケース会議を行える環境作り
- 第三者による練習視察など、「周りから見られている」環境を作る

厳罰化・明文化

- 抑止力としてのハラスメントの厳罰化
- 罰則規定の明確化
- 実際にペナルティを適用する
- ルールの明文化
- 全ての関係者から誓約書を取る

組織文化

- 日頃からのミーティングで問題の「小さい芽」を摘む
- 勝利至上主義の是正
- 人間形成の場、楽しめる場としての位置づけを重視すべき
- 指導者の人数を増やし、権力を分散させる
- 選手一人ひとりの意見をしっかり聞く、アスリートセンタードの推進

5. 風通しのよいチームづくり

風通しのよいチームや組織をつくるために取り組んでいることを調査しました。

風通しのよいチームにするための取り組み

コミュニケーション

- 日頃から気軽に話せる関係作り
- 練習後の会話を大切にする
- 意識的な声掛け
- 定期的なミーティング、個人面談、意見交換会
- レク(懇親会、BBQ、ボランティア、餅つき、親子試合)
- AMFでの交流
- 他チーム、地域との合同練習

情報共有

- 連絡ツール(LINE/SGRUMなど)を活用
- スピーディーな情報共有
- 議事録の作成と開示
- 保護者とも密に連携、練習を見てもらおう

選手主体

- 選手主導のトレーニング
- 選手が考え、選択し、決定する機会を作る
- 選手会の設立
- 一方通行のコーチングではなく、みんなで考える
- 教えすぎない指導で自主性に任せる
- 「目先の一勝より、この子の一生」

心理的安全性

- 意見を頭ごなしに否定せず受け止める
- 失敗を責めず、学びと成長の機会と捉える
- 上下関係の緩和
- タメ口で話せる環境作り
- ボトムアップでやり方を取り入れる
- 指導者が意見を押し付けず傾聴する
- 指導者がポジティブな発言を心がける

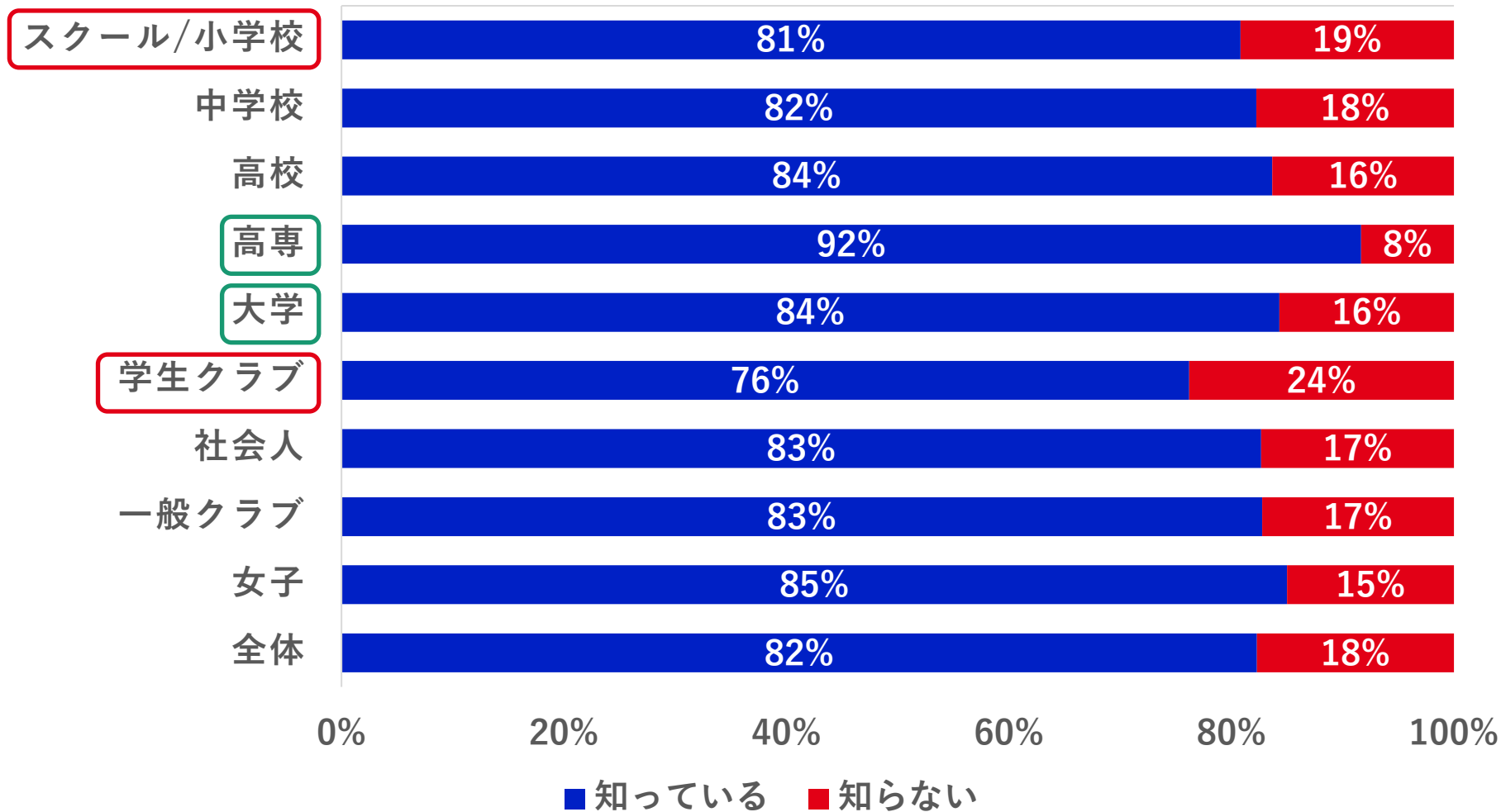
運営

- 複数人で分担して指導する
- 若手やOBを登用する
- 会計処理の明確化、報告
- チェック体制の強化(公認会計士への委託など)
- 意思決定フロー、役員選任方法の明確化
- 第三者を介入させ、選手の逃げ場や相談できる場を作る

6. 日本協会の取り組み

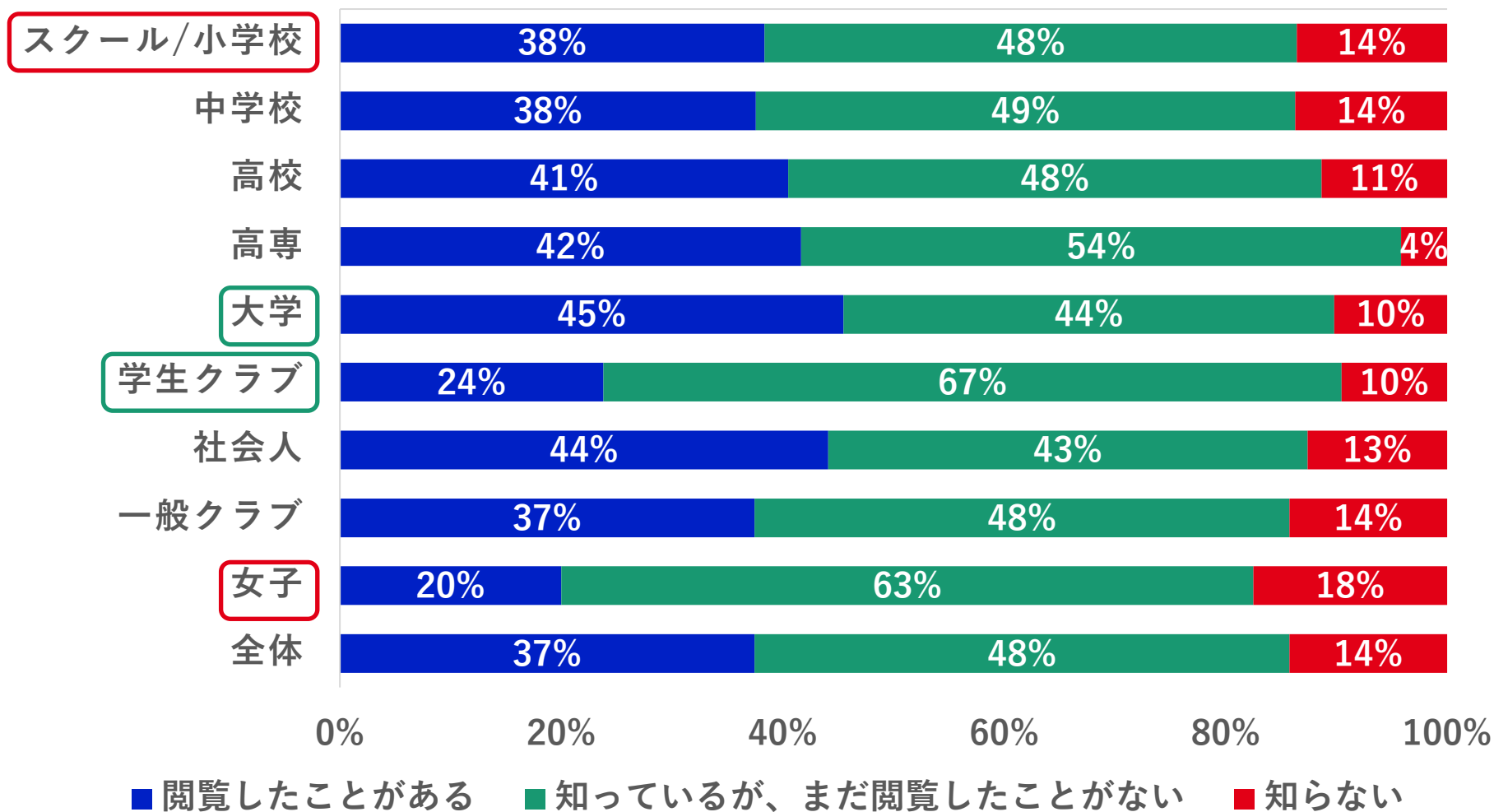
日本協会のインテグリティ相談窓口（2018年開設）とホームページ、セーフガーディングの取り組みの認知度を調査しました。

インテグリティ相談窓口の認知度



- 全体の認知度は昨年同様
- 大学(昨年73%)と学生クラブ(昨年60%)は認知度が向上
- ただ学生クラブは依然として低い
- スクールは昨年の91%から減少したが重複回答のためと思われる

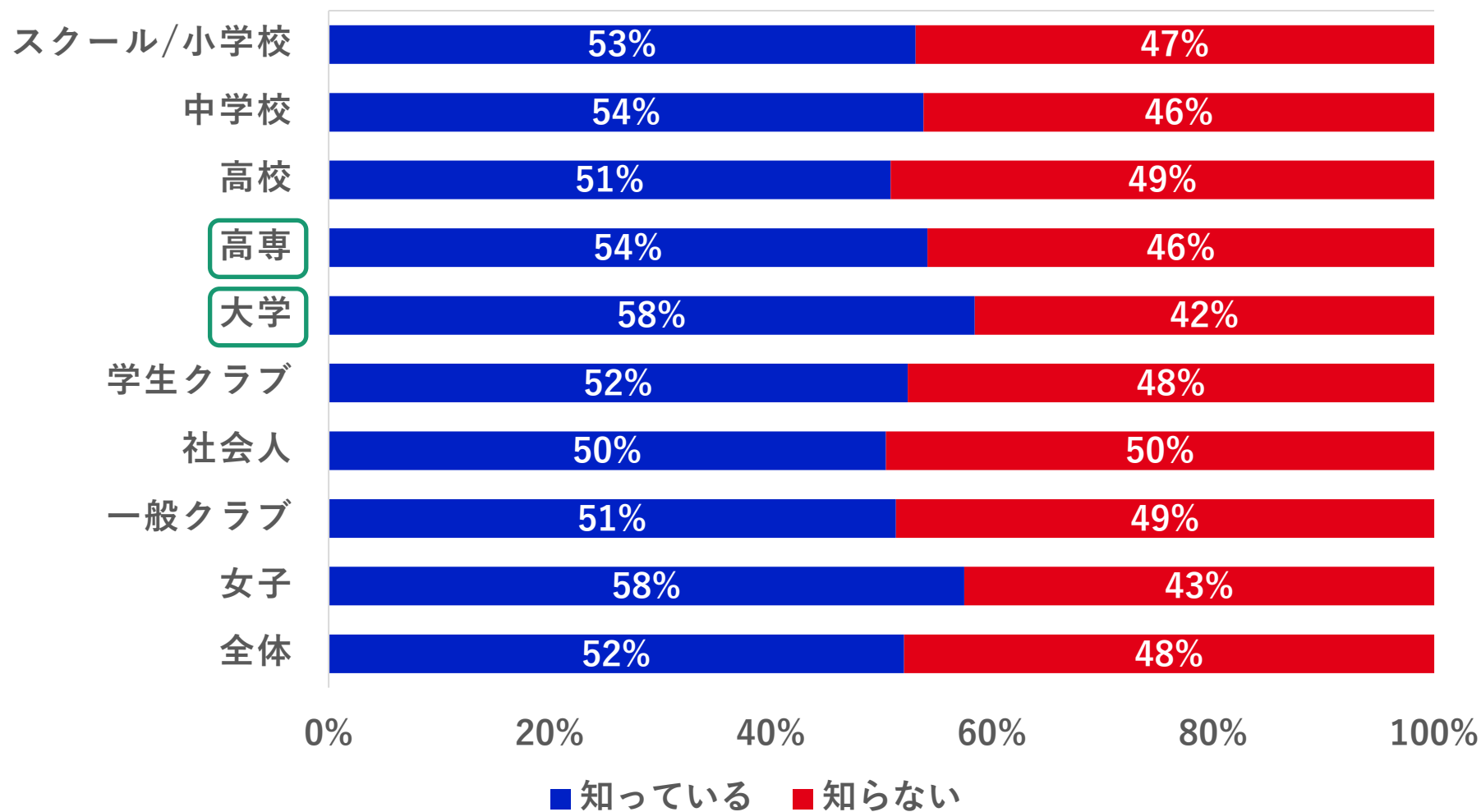
インテグリティ追求の方針のHPへのアクセス



- 全体の認知度は昨年同様
- スクール(昨年55%)と女子(昨年65%)は閲覧率が大幅に低下、重複回答のためと思われる
- 大学(昨年80%)と学生クラブ(昨年80%)は認知度が向上

※認知度＝閲覧したことがある＋知っているが、まだ閲覧したことがない

セーフガーディングの認知度



- 全体の認知度は昨年とほぼ同様
- 全カテゴリーで50%を超えた◎
- 高専(昨年35%)、大学(昨年48%)で認知度が向上

7. 日本協会へのご意見等

日本協会に対するご意見・ご要望をお寄せいただきました。

日本協会へのご意見・ご要望

研修・啓発活動

- 講習会の継続
- 取り組みをより積極的に周知する
- 過去の発生事例を具体的に開示する
- 保護者を含めた全関係者を対象とする
- テレビなどメディアの露出を増やす
- テレビ放映のある試合時に啓蒙ビデオを流す

罰則の厳罰化

- ハラスメントを起こしたコーチの資格停止期間の延長、実名掲載
- 都道府県協会に対して指導・監査の実施
- 当事者への意見聴取、裁定を早くできる体制の整備

透明性

- 協会の議事録の公開
- 意思決定の透明性を高める
- 特定の大会における不透明な選考プロセスの是正
- インテグリティ相談窓口への通報者保護に関する説明の強化
- 事案発生時にメール配信してほしい

現場の支援

- 現場へのフィードバック、バックアップ
- 支部協会にコンプライアンス遵守の具体的な方法を詳細に伝える
- 各カテゴリーに特化したアプローチ
- 保護者への伝達も行う

その他

- アンケートの設問が多すぎる、似た質問が多い
- アンケートの「注意している」の意味が分かりにくい
- 「インテグリティ」「セーフガーディング」といった英単語が分かりにくい
- 協会の若返り、外部人材の登用